

【小論文】

問 次の文章を読んで以下の設問に答えなさい。

子供のころ生傷が絶えなかった思い出を、向田邦子が「身体髪膚（しんたいはつぷ）」という随筆に書いている。父も母も、傷ひとつなく育てようと気を配ってくれた。それでも子どもは、思いもかけないところで、すりむいたりコブをつくったりしたと。随筆の題は「身体髪膚これを父母に受く、あえて毀傷（きしょう）せざるは孝の始めなり」古書に由来する。親にもらった身体を傷つけぬように、という教えだ。書いたとき、向田は乳がんの手術のあとだった。傷痕を抱えて、思うところがあったのかもしれない。米国の女優アンジェリーナ・ジョリーさん（37）が、両方の乳房の切除手術を受けたと伝えられた。がんは見つかったわけではなく、予防のためという。遺伝子を調べて、乳がんになる確率が87%と告げられた。将来の不安を、体の一部とともに取り去った。56歳だった母親を彼女はがんで亡くしている。その家系とはいえ、健康な部位を失う手術である。決断までの、つらい天秤（てんびん）のような苦悩は、想像するほかない。経緯と考えを米紙に寄せていた。こうした選択肢への理解を求めつつ、受け止めてコントロールできるものを恐れるべきではない、と。

手術によって、乳がんになる確率は5%以下に減ったそうだ。思えば人間は「病（やまい）の器（うつわ）」である。命ひとつに病は幾千。多勢に無勢の心細さで助っ人の医療を頼む。応えるように、選択肢はいよいよ増えていく。彼女に賛否はあるようだが、自分で決める心の準備は、誰にとっても無縁ではない。

（朝日新聞「天声人語」2013年5月16日）

設問1 「現代医療の問題点について」

設問2 「あなたが知り合いから課題文のような手術を受けようと思っていると相談されたら、どのように答えるかについて述べなさい」

## 【適性検査】

**英語：**長文を読んで、文章の空欄に当てはまる語句を選ぶ問題、本文の内容に一致する短文を選ぶ問題。大問は3題あり、日本語での質問、英語での質問の両方がある。

**国語：**日本語の長文があり、空欄や下線が引かれている。その後で、空所に適する語句や内容一致などの読解問題、下線部についての内容一致などの読解問題、空欄を含む下線部の内容一致問題（空所補充は要求されておらず、空欄に当てはまる選択肢もない）

**化学：**大問は1つだけ。放射線物質（プルトニウムやウランなど）の半減期についてのグラフ問題。化学Ⅰの知識で対応可能。

**生物：**大問2題。ABO式血液型の遺伝についての問題。物理選択者にも分かるように長い説明文がついていたが、生物選択者には既知の問題なので知識的にも時間的にも生物選択者に有利。ジャコブとモノーのオペロン説についての問題（説明会では生物Ⅰの内容のみと発表されていたが、これは生物Ⅱの内容）

## 【集団面接】

大部屋で課題の書かれたB5の紙が配布され、10分程度考える時間が与えられた後に全員で移動。課題は「秋入学の是非について」。大部屋では、座席は受験番号に関係なくランダムに振り分けられる。座席に番号プレートが置いてあり、番号の色が緑またはオレンジ。緑はテーマについての反対派、オレンジは賛成派という設定。集団面接は、賛成派4人、反対派でのディベート形式。8人ごとの班で小部屋で行われる。受験生8人のほか、司会1人と採点官2人の3人。時間は30分程度。

## 【個人面接】

(大部屋に戻って待機した後、受験番号順に呼び出される。受験生1人に対して面接官は3人。)

「小論文、適性検査、集団面接の手応えは」

「特別枠とはどういうものか理解していますか」

「将来はどのような科につきたいか、その理由は」

「自分のつきたい科に必要な能力をあなたは持っていますか？その根拠となる具体例は」

「高校で好き、または得意な教科は」など

## 【小論文】

問 次の文章を読んで以下の設問に答えなさい。

子供のころ生傷が絶えなかった思い出を、向田邦子が「身体髪膚（しんたいはつぷ）」という随筆に書いている。父も母も、傷ひとつなく育てようと気を配ってくれた。それでも子どもは、思いもかけないところで、すりむいたりコブをつくったりしたと。随筆の題は「身体髪膚これを父母に受く、あえて毀傷（きしょう）せざるは孝の始めなり」古書に由来する。親にもらった身体を傷つけぬように、という教えだ。書いたとき、向田は乳がんの手術のあとだった。傷痕を抱えて、思うところがあったのかもしれない。米国の女優アンジェリーナ・ジョリーさん（37）が、両方の乳房の切除手術を受けたと伝えられた。がんは見つかったわけではなく、予防のためという。遺伝子を調べて、乳がんになる確率が87%と告げられた。将来の不安を、体の一部とともに取り去った。56歳だった母親を彼女はがんで亡くしている。その家系とはいえ、健康な部位を失う手術である。決断までの、つらい天秤（てんびん）のような苦悩は、想像するほかない。経緯と考えを米紙に寄せていた。こうした選択肢への理解を求めつつ、受け止めてコントロールできるものを恐れるべきではない、と。

手術によって、乳がんになる確率は5%以下に減ったそうだ。思えば人間は「病（やまい）の器（うつわ）」である。命ひとつに病は幾千。多勢に無勢の心細さで助っ人の医療を頼む。応えるように、選択肢はいよいよ増えていく。彼女に賛否はあるようだが、自分で決める心の準備は、誰にとっても無縁ではない。

（朝日新聞「天声人語」2013年5月16日）

設問1 「現代医療の問題点について」

設問2 「あなたが知り合いから課題文のような手術を受けようと思っていると相談されたら、どのように答えるかについて述べなさい」